

ちひろ公演ニュース

2018. 11. 26 NO. 3

前進座「ちひろ」長野公演実行委員会

電話 026-224-8686

- ・昼の部 ペアチケット40人分の在庫あります
- ・夜の部 ペアチケット90人分の在庫あります
- ・須坂・中野・飯山では目標の100名を超えました

広く声をかけて、参加者を広げましょう

戦後生まれの学習の場

11月22日にちひろ公演の台本を書いた朱海青さんと一緒に長野市内の組合書記局にお邪魔して、公演の内容や見所のお話をしました。

100年前に生まれて戦争をくぐって来たいわさきちひろさんが絵に込めた思いは「戦争は、もうこりごり。子どもたちに戦争の犠牲をかけてはいけません」です。戦後生まれの私としては「戦争は、いけない」です。

職場や地域では「憲法9条を守れ、自衛隊を人助け集団から戦争をさせられる集団にしてはいけない」が世論になりつつありますが、その前提となる「戦争は、いけない」がまだ若い人の文化になりきっていないと感じています。

今回のちひろ公演は、単に「年配者の楽しみ」だけでなく、戦争を知らない私にとっては「なぜ戦争はいけないのか」の学習の場でもあると思います。

ちひろさんの「戦争は、こりごり」の思いを少しでも受け継いでいきたいと思います。

笑いと涙で楽しんで

劇は、戦争に加担させられてきた絵描きたちの戦後の若者群像という現代劇ですが、笑いと涙の劇になっていて、12日から始まった公演で実証されているので、ぜひ楽しんで下さい（朱さんの話）です。

25日の信毎1面に「国策紙芝居によって、国民を戦争体制に駆り立てるだけでなく、画家、教員、僧侶、地区役員を戦争に協力させた」と掲載されています。（次項）

まだまだ2.5倍の奮闘を

11月22日現在、1000人の目標に対して、まだ400名の状況で、チケットの販売が遅れています。

長野公演は平日のため、昼の部だけでなく、働いている人にも観て頂こうと夜の部も設けていますので、あと2週間ですが、チケットを広めて下さい。

実行委員会事務局

戸澤一雄記



前列左から善明、朱、鶴山、ちひろ、小原

- ・20人乗りバスは、飯山 → 中野 → ホクト文化ホール です。
- ・12月6日（木）NHK イブニング信州 18:10~19:00 の中でちひろ公演が紹介されます。

10年
軍手イ
訂づくり報告
集い一区切り
発表重ね30回
にみサミット
ース26・27・29面

2018(平成30)年

11月25日

日曜日



かくれんぼ? いえ収穫です

しゃがんだ子どもの体が隠れるほどの大きな葉。地域の伝統野菜を守ろうと、「源助かぶ菜」が飯田市で収穫された。 27面

大相撲 ●御嶽海 よりきり 栃ノ心 13面



1873年(明治6年)創刊
発行所
信濃毎日新聞社
長野本社 〒380-8546
長野市海東町 657番地
電話(026)
受付236-3000編集236-3111
販売236-3310広告236-3333
松本本社 〒390-8585
松本市中央 2丁目20番2号
電話(0263) 報道32-2830
販売32-2850 広告32-2860
©信濃毎日新聞社 2018年

長野県産の茶葉使用
信濃高原
なめ茸茶漬
特選
丸善食品工業株式会社
http://www.tableland.co.jp/

天気
最高気温 最低気温
北部 6時 12 18 24
中部 6時 12 18 24
南部 6時 12 18 24
5%以上 5%未満
29面に詳しい天気情報

国策紙芝居 映す「総力戦」

北信の有志所蔵

信大教授ら参加研究グループ

8作品新たに把握

戦時下に戦意高揚などを目的に作られた「国策紙芝居」を調査している神奈川大非文字資料研究センター(横浜市)の研究グループが24日、北信地方の市民有志でつくる信州戦争資料センター(長野市)が所蔵する紙芝居を調べた。これまで存在を把握していなかった8作品と、実物がなかった8作品を確認した。総力戦として国民が戦時体制に組み込まれていた当時の状況を確認する上で重要としている。

研究グループによると、国策紙芝居は、軍部や政府の意向を受けて国策会社が作った。千作以上あったとみられている。信州戦争資料センターは、オークションなどを通じて1940(昭和15)年

ほかに、貯蓄や公債の購入「流行だった画風を意識して呼び掛ける拾田札の喜」描いたようだ。同じ頃他又(41年7月発行)や、戦死しディアと絡めて時代に目を向けた兄を持つ妹が資源回収を「けいた」と話した。研究グループ代表で神奈川大特任教授の安田常雄氏は「これだけまとまると未発見作品が見つかることはめったにない」と話した。23日は須坂市立博物館で、これまで存在を把握していなかった2作品を確認したという。



紙芝居「コタバル」に描かれた兵士



把握されていなかった国策紙芝居を記録撮影する神奈川大の研究グループ24日、長野市

戦時体制 国民駆り立てる

国策紙芝居は、戦後多くが処分されたため、全貌がはっきりしない。神奈川大非文字資料研究センターの研究グループが2014年度から紙芝居の内容や、上演を担った人々について調査。国民を戦時体制に駆り立てる「真を担ったことが判明しつつある。研究グループ代表の安田常雄氏は「人々の意識を導く重要な役割を担っていた」と、映画や雑誌、流行歌など、ともに戦時下の大衆文化構造を解き明かす鍵になるとみられる。14年度から3年間の研究成果は、今年2月発行の「国策紙芝居からみる日本の戦争」にまとめた。信州を訪れたのは第2期調査の一環。安田氏は「統編刊行を目指す」といふ「人々の生活がどう戦時体制に取り込まれていたかを解き明かし、『どこで踏みとどまることができるか』を『考えたい』と研究意義を語った。(井口賢太)

国策紙芝居 日中戦争が始まった1937(昭和12)年ころから、続後の国民向けのプロパガンダ(宣伝活動)を担った。政府各局や軍部、翼賛団体などが製作会社や38年設立の日本教育紙芝居協会に任せ、隣組などで上演された。戦死した兵士の物語のほか、息子を軍に送り出した母親をたたえ、少年を飛行機に勧誘する作品など内容も多岐にわたる。37年に東京1(ロンドン)間を当時最短の世界記録飛行した安曇野市出身の飯沼明飛行士(1912〜41年)を扱った「神風の飯沼止明」もある。